

平成 22 年 9 月

京都府公立大学法人の業務の
実績に関する評価結果報告書

京 都 府

平成 2 1 年度

京都府公立大学法人の業務の実績に関する評価結果

平成 2 2 年 9 月

京都府公立大学法人評価委員会

1 評価の基本方針

(1) 評価の趣旨

京都府公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項の規定により、京都府公立大学法人（以下「法人」という。）の平成21年度の業務の実績について評価を行った。

(2) 評価の方針

- ア 大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資する。
- イ 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、業務の全体について評価を行うことにより、業務運営の改善・充実に資する。
- ウ 評価を通じて、法人の業務運営状況を明らかにし、府民にわかりやすく示す。

(3) 評価の方法

- ア 評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- イ 評価は、全体評価及び項目別評価により行った。

(ア) 全体評価

全体評価は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務の実績全体について評価を行った。

(イ) 項目別評価

項目別評価は、年度計画の小項目及び大項目ごとに行った。

年度計画の小項目ごとの評価は、次のⅣ～Ⅰの4段階により行った。

- | |
|--------------------|
| Ⅳ 年度計画を上回って実施している |
| Ⅲ 年度計画を十分に実施している |
| Ⅱ 年度計画を十分には実施していない |
| Ⅰ 年度計画を実施していない |

年度計画の大項目ごとの評価は、次のS～Dの5段階により行った。

- | |
|-------------------------------|
| S 特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合） |
| A 順調に進んでいる（すべてⅣ又はⅢ） |
| B 概ね順調に進んでいる（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上） |
| C やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満） |
| D 重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合） |

2 全体評価

(1) 総評

法人は、京都府立医科大学（以下「医科大学」という。）及び京都府立大学（以下「府立大学」という。）の設置及び管理を通して、京都府民に開かれた大学として透明性の高い運営を行うとともに、両大学の教育研究の特性への配慮の下で、百年を超える伝統及び実績の継承や両大学相互の連携を図ってきた。

また、京都府における知の拠点として、質の高い教育研究を実施することにより幅広い教養、高度の専門的な知識及び高い倫理観を備えた人材を育成してきた。

さらに、大学や地域の多様な主体と協力・連携した研究成果等の活用、附属病院における全人医療の提供等を通じて、京都府民の健康増進及び福祉の向上、京都文化の発信並びに科学・産業の振興に貢献してきた。法人は、地域社会はもとより、国内外の発展に寄与することを目的として、平成20年4月1日に発足した。

平成21年度は、法人化2年目を迎え、初年度と同様、理事長及び両大学の学長を先頭に教職員が一丸となって、高い目標を掲げ、その達成に向けた努力が認められる。

両大学では、独自の教育研究を推進するとともに、京都工芸繊維大学と3大学で教養教育の共同化を推進するため、教養教育共同カリキュラム化及び教養教育共同化施設の整備に向けて具体的な取組が進められている。

医科大学では、府内初の第1種感染症指定医療機関に認定されるとともに、新型インフルエンザ発生時には、直ちに院内に発熱外来を設置し、感染患者の入院治療を行った。府立大学では、京都や地域の視点を重視した研究や協働が行われ、府民など多様な主体と学生が参加して、地域課題への政策提言を行うとともに、その後も具体的な活動が地域へと広がりを見せている。

一方で、両大学とも学内における教育環境の充実について課題認識を持って引き続き積極的な取組を行うよう期待したい。

年度計画455項目中444項目（97.6%）において、「年度計画を上回って実施している」、「年度計画を十分に実施している」と認められ、平成21年度の業務実績を総合的に評価すると、全体として「概ね順調に進んでいる」と認められる。

今後も両大学が、百年を超える歴史と伝統に培われた特色ある教育研究の強みを活かしながら、中期目標・中期計画の達成に向けて、理事長及び両大学の学長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって着実に業務の推進と成果の達成を図っていくことを期待する。また、取組が十分でないと認められた課題等については点検し、今後の法人の業務改善に活かされることを期待する。

(参 考) 大項目別評価一覧表

大項目 \ 評価	S 特筆すべき進捗状況 にある	A 順調に進んでいる	B 概ね順調に進んで いる	C やや遅れている	D 重大な改善事項 がある
教育研究等の質の 向上に関する事項			○ (○)		
業務運営の改善等 に関する事項			○ (○)		
財務内容の改善に 関する事項			○ (○)		
自己点検・評価並 びに情報の提供に 関する事項		○		(○)	
その他運営に関す る重要事項		○	(○)		

注) () 書は昨年度の評価結果

(2) 特筆すべき事項及び課題となる事項等

(教育)

【医科大学】

- ・ 看護学科の臨地教育の指導体制の充実を図るため、臨地実習に協力する医療機関等において、優れた実習指導者に対する称号の付与を行う臨地指導教授制度を20年度に導入し、21年度は新たに臨地指導教授3名、臨地指導准教授5名、臨地指導講師9名、臨地指導助教5名を委嘱した。

【府立大学】

- ・ 文学部の「京都文化学コース」や「文化遺産学コース」等で新たな開講科目を実施するとともに、公共政策学研究科では、府民から募集した検討テーマで、府民や自治体職員、府職員、大学院生が参加した公開講座「地域協働オープンワークショップ」を開催し、地域課題に対する政策提言を行うなど座学と実習の有機的統合を図るよう実施した。

【3大学連携】

- ・ 3大学で教養教育フォーラムを開催するとともに、3大学の教養教育部会で、教養教育共同カリキュラム案の基本的な考え方をとりまとめた。
- ・ 北山文化環境ゾーン整備推進委員会検討報告書が京都府に報告されたことを踏まえ、関係機関と調整を行い、新施設（資料館・府立大学文学部・図書館）及び3大学教養教育共同化施設の整備機能等を取りまとめ、北山文化環境ゾーン整備委員会における協議に反映させた。

(研究)

【医科大学】

- ・ 高度先進医療として、難治性眼疾患に対する羊膜移植術や末梢血単核球移植による血管再生治療等を推進するとともに、患者心臓由来幹細胞を用いた重症心不全患者への心筋再生医療の臨床応用を開始したほか、がん診療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として様々な取組を行った。

【府立大学】

- ・ 地域連携センターとの連携の下に、公共政策学部が中心となって運営する「京都政策研究センター」が設置され、京都府との協働研究による研究成果として、フォーラム開催、研究発表、ワークショップ及び京都府のプロジェクトにも参加するなど幅広く積極的な活動が展開された。
- ・ 科学研究費を含む外部資金申請について、医科大学では前年度と比べて相当の努力をなされていると認められる。府立大学においても、一定の取組が進められているが、年度計画の達成に向け更なる取組を期待したい。

(地域貢献)

【医科大学】

- ・ 医科大学としても研修医等の確保が厳しくなる中で、保健所や府立与謝の海病院など関係機関へ例年と変わらぬ人数の医師派遣を行うとともに、府北中部地域への医師派遣の増員を行うなど、医療を通じた地域貢献に努めた。（参考：21年4月 320人 → 22年4月 334人、14人増）
- ・ 研修医募集にあたり、全てのコースの研修医が地域医療の実情を知るため、北部地域等で研修ができるようにプログラムの充実を図った。

【府立大学】

- ・ 地域連携センターと各学部との共催シンポジウムを開催するとともに、農場ユースカルチャー、演習林野外セミナーなど府民を対象とした実習や施設の一般開放を推進した。さらに、桜楓講座4回、SKY大学24回、地域文化セミナー12回、リカレント：健康科学セミナー5回開催など、法人や他大学との連携等も含め、多様な公開講座を開講した。
- ・ フィールドワークなどを通じて、市町村・住民・NPOとの協働の取組を行い、地域課題に対応した具体的な研究を行う包括協定について、新たに長岡京市と締結し、地域の活性化や地域力再生に取り組んだ。（3市町と包括協定を締結済）

（医療への貢献・医科大学附属病院）

- ・ 府内初の第1種感染症指定医療機関に認定されるとともに、新型インフルエンザ重症患者の受け入れ訓練や研修会などを実施した。また、5月の新型インフルエンザの国内発生を受け、直ちに院内に発熱外来を設置（延べ患者数236人）し、感染患者（疑いを含む。）計9名の入院治療を行った。さらに、新型インフルエンザ相談窓口を設置するとともに、新型インフルエンザ予防接種を実施し、入院、外来合わせて計2,507人の患者に接種した。
- ・ 病床利用率の向上を図るため、同日入退院の取組を病院全体として実施したほか、病床利用率や平均在院日数、診療実績を考慮して、四半期ごとに診療科配分病床の見直しを図った。
- ・ 患者満足度調査においては、入院で79.8%（年度計画85%以上）、外来で69.2%（年度計画75%以上）であり、院内の業務改善委員会を通じ、今後更なる取組を期待したい。

（3）評価委員会コメント

- ・ 医科大学においては、看護学科の臨地教育における指導体制の充実を図るとともに、地域医療への使命感を持った臨床医の育成、医師派遣などでも貢献し、さらに附属病院においては、高度先進医療を行う各種診療拠点病院として様々な取組を行ってきた。
- ・ 府立大学においては、「京都政策研究センター」の設置により、京都や地域の視点を重視した研究や協働が行われ、府民など多様な主体と学生が参加し、研究成果として地域課題への政策提言を行うなど幅広く積極的な活動が展開された。
- ・ 理事長裁量経費として創設した法人総合戦略枠を活用し、3大学の連携研究事業や若手研究育成支援等の研究支援、国際交流支援等を実施したところであり、抗老化作用の評価法の確立など3大学連携研究支援事業で得られた成果の下に、さらに国へ競争的資金の申請を行うなど、教育研究の向上を図ってきた。
- ・ 業務実績報告書の実施状況等について、内容を理解することが難しいと見られる表現があることから、府民にわかりやすい表現となるよう更なる努力を求める。
また、年度計画での表現が「より一層強化する」など具体性に欠ける表現となっており、来年度以降の年度計画の策定にあたり工夫が望まれる。

3 項目別評価

(1) 教育研究等の質の向上に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

「教育研究等の質の向上に関する事項」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、事業の外形的・客観的な進捗状況についての評価を行った。

(小項目評価：ア～オの計)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	19	340	9	0	368
構成比(%)	(5.2)	(92.4)	(2.4)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の368項目中359項目がIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

なお、本項目は、年度計画数が多く、内容も幅広いことから、「ア 教育等に関する目標」、「イ 研究に関する目標」、「ウ 地域貢献に関する目標」、「エ 医科大学附属病院に関する目標」及び「オ 国際交流に関する目標」に分類し、集計を行う。

ア 教育等に関する目標

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	4	180	4	0	188
構成比(%)	(2.1)	(95.8)	(2.1)	(0.0)	(100.0)

平成21年度の実績のうち、評価できる項目（IV、III）又は課題となる項目（II）の主なものを記載する。（以下同じ。）

(ア) 評価できる項目

・入学者受入れ【府大】

オープンキャンパス等での入試相談コーナーの充実を図るとともに、入試説明会を積極的に開催し、今年度からは予備校生を対象とした情報配信サービス「キャンパスチャンネル」にも参加した。さらに、府内高等学校や進学相談会を通じて受験生に配布する大学紹介DVDを新たに制作するなど、進学志望者への広報・相談活動の一層強化を図っている。

・教育課程【府大】

西安外国語大学との間で新たな学生交流をまず学部生から進めることで合意し、22年度から本格的に留学生を受け入れるほか、日本・中国文学科の教員が西安外国語大学に赴き、約1ヶ月間大学院の授業を担当するなど積極的な交流へと発展している。

- ・教育課程（公共政策学研究科）
- ・教育方法（大学院）【府大】※再掲

府民や自治体職員、府職員、大学院生が参加する「地域協働オープンワークショップ」を開催し、地域課題に対する政策提言を行うとともに、コンテストで優秀賞を獲得したほか、京田辺市では「輝けシニア塾」が開催されるなど活動が具体化し、地域へと広がっている。

（イ）課題となる項目

- ・教育方法（学部）【府大】

成績優秀者表彰の実施方針（仮称）の策定については、関連実施調査に留まっているので、調査が速やかに行われ、実施方針（仮称）が策定されるよう期待したい。

- ・教育方法（学部）【医大】

教育研究の基礎となる方法論や生命倫理について、第1学年次に履修を必修化するなど、高年次に研究に専念できるよう履修形態の工夫が望まれる。

- ・教育環境等の充実【府大】

今後、研究室の図書の効果的な管理・運営を図るため、研究室からの図書移管要望が予想される中、更なる増収蔵策の検討が進むよう期待したい。

イ 研究に関する目標

（小項目評価）

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	4	5 6	2	0	6 2

構成比(%) (6.5) (90.3) (3.2) (0.0) (100.0)

（ア）評価できる項目

- ・研究成果の地域への還元【医大】

医療・看護それぞれの分野で、府民に関心の高いテーマ（医療）「こころと身体の健康」、（看護）「乳がん」を設定し、多くの府民の参加を得ることで、医学研究成果の府民への還元と生涯学習の場の提供に貢献した。

- ・目指すべき研究の方向・水準（文学部・文学研究科）【府大】

刊行誌『和漢語文研究』は、論文の内容が高く評価され、学会の評価が確立している団体から表彰されるとともに、京都新聞への古典籍紹介、さらには、京都の文化と景観に関する学際的研究では学生・府内企業・府民との共同作業で行う地域貢献型研究の新たな可能性を切り開く取組を行った。

また、外部資金の獲得に向け、学内競争的資金を活用し研究内容を充実発展させ、科学研究費補助金に申請・採択される研究が出るなど、公的資金獲得にも成功した。

- ・目指すべき研究の方向・水準（公共政策学部・公共政策学研究科）【府大】

地域連携センターとの連携の下に、公共政策学部が中心となって運営する「京都政策研究センター」が設置され、京都府との協働研究による研究成果として、フォーラム開催、研究発表、ワークショップ及び京都府のプロジェクトにも参加するなど幅広く積極的な活動が展開された。

(イ) 課題となる項目

・研究環境・支援体制の整備【府大】

海外研修等に係る他大学の制度について調査し、具体化に向けた検討が行われるよう期待したい。

ウ 地域貢献に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	3	45	1	0	49

構成比(%) (6.1) (91.9) (2.0) (0.0) (100.0)

(ア) 評価できる項目

・行政等との連携【府大】

京都府との協働研究として3テーマを設定し、フォーラムでの研究発表、事例分析・意見交換会及び連続講演・ワークショップなど多彩かつ幅広い活動を展開した。

・行政等との連携 教育機関との連携【府大】

地元小学校の栄養教諭と連携して食育を継続的に実施したり、地域住民を対象にした食事と運動のセミナーや地域の行政栄養士との協働による特定保健指導などが行われており、今後の継続も期待したい。

(イ) 課題となる項目

・医療を通じた地域貢献【医大】

医療センターの調整機能について、引き続き具体的な検討を期待したい。

エ 医科大学附属病院に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	8	49	2	0	59

構成比(%) (13.6) (83.0) (3.4) (0.0) (100.0)

(ア) 評価できる項目

・医療サービスの向上【医大】

再診予約システムを全32科において運用するとともに、紹介病院からの優先再診予約枠及び地域医療連携枠を設けることを推進した結果、紹介患者数も大幅に増加した。

(平成20年度：5,577人→平成21年度：6,895人)

・政策医療の実施【医大】

府内初の第1種感染症指定医療機関に認定され、新型インフルエンザの国内発生では、直ちに院内に発熱外来を設置（延べ患者数236人）、感染患者（疑いを含む。）計9名の入院治療を行うなど、入院、外来合わせて計2,507人の患者に予防接種を実施した。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

「診療のご案内」の配布等により新規紹介患者の受入増を図るとともに、入院患者の転院を円滑に進めるため、病診連携意見交換会や病院幹部職員の病院訪問を随時実施した。

先進医療は、新たに3件の承認を得たほか、施設基準は4件の新規取得を行った。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

疼痛緩和外来を設置したほか、入院患者の症状緩和に係る専従のチームを設置し、緩和ケア診療加算の施設基準を取得した。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

ベッドコントロール業務一元化ワーキンググループを設置し、具体的な課題及び対応策の検討を行った結果、病床の一元化に向けた取組を制度化した。

・病院運営体制の強化と健全な経営の推進【医大】

同日入退院の取組を開始（7月）した。

(イ) 課題となる項目

・臨床教育等の推進 医療サービスの向上【医大】

医療安全研修会の職員平均出席回数は1.3回、感染対策研修会1.2回といずれも目標に到達しなかったため、職員が平均2回以上出席できるよう取り組まれることを期待したい。

- ・医療安全研修会 開催回数：9回／受研者数：2,022名
- ・感染対策研修会 開催回数：10回／受研者数：1,900名

オ 国際交流に関する目標

(小項目評価)

評価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	10	0	0	10
構成比(%)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の10項目全てがⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当している。

(2) 業務運営の改善等に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	1	29	1	0	31
構成比(%)	(3.2)	(93.6)	(3.2)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の31項目中30項目がIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 評価できる項目

- ・事務等の効率化に関する目標を達成するための措置【医大】
医師の事務負担の軽減や診療報酬算定などを行うため、13名の病棟クラークを新たに配置した。

(イ) 課題となる項目

- ・事務等の効率化に関する目標を達成するための措置【府大】
附属農場における売払業務について、更なる管理の適正化に向けた取組を期待したい。

(3) 財務内容の改善に関する事項

評 価	B 概ね順調に進んでいる
-----	--------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	2	15	1	0	18
構成比(%)	(11.1)	(83.3)	(5.6)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の18項目中17項目がIV（年度計画を上回って実施している）又はIII（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、B評価（概ね順調に進んでいる）と認められる。

(ア) 評価できる項目

- ・学生納付金・病院使用料等【医大】
病院使用料について、自動精算システム及びクレジットカード決済を12月から導入し、授業料の口座引落も平成22年度前期（第1期）から、入学金・入学考査料についても、口座振込収納可能となるなど利便性の向上が図られた。

・経費に関する目標を達成するための措置【医大・府大】

理事長のリーダーシップの下、「地域課題等研究支援費」（10件、10,000千円）及び「若手育成支援費」（13件、8,976千円）等の重点的かつ戦略的な研究費配分を行い、国の競争的資金の申請につながる研究が出るなど教育研究の向上が見られた。

(イ) 課題となる項目

・外部研究資金等の積極的導入【府大】

インターネットによる情報提供を行い毎月更新されたが、大学施設の利用状況は、前年とほぼ同じであり、更なる利用拡大に向けた取組を期待したい。

(4) 教育研究及び組織運営の状況の自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

評 価	A 順調に進んでいる
-----	------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	11	0	0	11
構成比(%)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の11項目全てがⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と認められる。

(5) その他運営に関する重要事項

評 価	A 順調に進んでいる
-----	------------

(小項目評価)

評 価	IV	III	II	I	計
項目数	0	27	0	0	27
構成比(%)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)

年度計画に記載の27項目全てがⅢ（年度計画を十分に実施している）に該当することから、大項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と認められる。